BizRobo! 導入事例

日本赤十字社

さいたま赤十字病院さま



内製で100体以上のロボットを開発し年間350時間の業務削減を実現！

さいたま赤十字病院は、33の診療科、638床の病床、高度救命救急センターや総合周産期母子医療センターを有する総合病院、災害拠点病院です。患者数は一日平均で、外来患者1,483名、入院患者573名に上ります（いずれも令和6年）。
この多数の患者を迎え入れるのは、約1,500名の職員の方々。しかし、スタッフの業務量は年々増加し、人事課など一部の部署では恒常的に残業時間が多くなっていました。そこで、業務時間削減のために2023年にBizRobo!が導入されました。現在では100体以上のロボットが稼働し、約20の業務においてスタッフの負担削減に貢献しています。

今回は、医療機器や電子カルテなどのシステム保守業務の傍ら、BizRobo!による現場業務改善も行っている情報システム課の前田惇氏に、BizRobo!の活用方法を伺いました。

Profile

さいたま赤十字病院

33の診療科に638床の病床を擁し、県内のみならず周辺県からも多数の来院がある、埼玉県さいたま市の総合病院です。

法人名
日本赤十字社

事業内容
総合病院

WEBサイト
https://www.saitama-med.jrc.or.jp/

お話を伺った方



情報システム課
前田 惇 氏

Copyright © OPEN, Inc. All Rights Reserved.

※記載している内容は取材日時点の情報です。

RPA導入の背景

「人事課」の残業を減らしたいが、採用難で人が増やせない…

同院の人事課では、残業が常態化し問題となっていました。コロナ禍以降は採用難が顕著になっており、人員を増加させようにも、有効な手立てがない状況でした。そこで、DXやデジタル化により業務削減ができないかと考え、2023年に医療向けの勤怠管理システムが導入されました。しかし、医療スタッフは不規則な働き方を余儀なくされるため、導入後も勤怠時刻の打刻漏れなどが多くありました。また、給与計算に必要なデータの抽出など、勤怠管理システムでは対応できない業務もあり、人事課の負担は大きく削減されないままでした。



なんとか業務量を削減すべく、勤怠管理システムでは効率化できないルーティーンワークを自動化したいと、人事課の職員がBizRobo!の導入を発案。2か月のトライアル期間を経て、本導入に至りました。

BizRobo!を選んだ理由

「開発の手軽さ」とリーズナブルな「導入コスト」が決め手に！

RPA導入に際しては、複数の製品が検討されましたが、以下の3点が決め手となり、BizRobo!が選定されました。



まず、現場主導でロボット開発や運用ができることです。比較的短い学習時間で、現場の職員が自らロボットを開発できそうだという点が評価されました。情報システム課による技術的な支援に適した高い機能性もあり、院内全体に展開可能なシステム基盤になりうるとも考えられました。

2点目は、柔軟なライセンス・料金システムです。最初は1ライセンスから導入し、必要に応じてライセンスを拡張できるため、ロボットの稼働状況に応じた必要最小限のコストで運用できることも理由となりました。

3点目は、同じ日本赤十字社の北海道・旭川赤十字病院で、既にBizRobo!が導入され、実績があったことでした。

Copyright © OPEN, Inc. All Rights Reserved.

※記載している内容は取材日時点の情報です。

対象業務と導入効果

「業務時間の削減」に加えて、「システム改修費の削減」も！

同院で最初に開発されたロボットは、勤怠管理システムと連動し、勤怠の打刻漏れがある職員にメッセージを送るものでした。このロボットは、BizRobo!の開発支援をおこなうJRCエンジニアリング社のサポートのもと人事課の職員が作成しました。以降の開発は、グループ病院での研修を受けた職員を中心に、わずか4〜5名の事務スタッフが主体となって内製で推進。導入から約2年で、「残業時間が多い職員にアラートを送るロボット」や「入院患者カードの作成ロボット」など130体以上を自ら開発し、そのうち約100体が今も稼働しています。

開発 毎朝「入院患者カード」の作成＆印刷を行うロボット

電子カルテ情報をまとめて「患者カード」を作成



毎朝の作業時間が 0分に！

BizRobo!が、新規入院患者の電子カルテ情報をまとめて「患者カード」を作成します。前日に入院した患者のカードを、翌朝までに自動で印刷してくれるため、これまで手作業で行っていた業務が不要に。担当の若手職員の毎朝の負担が減り、別の業務に時間が割けるようになりました。

開発 「抗菌薬」を使用した患者の情報を共有するロボット

前日〜当日に「抗菌薬」を使用した患者の情報を自動で共有



カルテシステム改修の コストも削減！

抗菌薬を投与した患者の情報をBizRobo!が電子カルテからピックアップし、10時と15時に「抗菌薬チーム」に共有します。当初は電子カルテのシステム改修による対応を検討しましたが、実現には多額の費用を要することが判明。しかし、BizRobo!を活用することで追加費用なしで実現できました。

これらの効果により、同院では現時点で少なくとも年間350時間程度の業務削減を実現しています。さらに、現場からあがる電子カルテシステムの改修要望に対してもBizRobo!で対応するケースが増えているといいます。電子カルテの改修には、通常数十万〜数百万円の費用と長い開発期間が必要です。しかし、BizRobo!を上手に活用できれば、事務スタッフが1〜2週間、業務の合間にロボットを開発することで課題解決できる可能性があります。そのため、潜在的なコスト削減効果はさらに大きいと見込まれています。

Copyright © OPEN, Inc. All Rights Reserved.

※記載している内容は取材日時点の情報です。

今後について

様々な部門でBizRobo!を活用し、年間1,000時間の業務削減を！

前田氏は、BizRobo!導入の目的であった「業務効率化による時間外労働の削減」について、年間350時間の削減という一定の成果が見えてきている点を評価しています。

そのうえで今後は、薬剤部や看護部などの様々な部門にもBizRobo!の利用を提案していく考えです。「院内全体で活用を広げることで、年間1,000時間の業務削減を当面の目標としています」と話します。

さらに同氏は、すでに先行導入している旭川赤十字病院や、グループ外の病院の活用事例から積極的に学ぶ姿勢を示しています。「現場では新しいシステムに懐疑的な声もありますが『グループ内の他病院での具体的な事例』を示せば、提案しやすくなるはず」と期待を寄せています。



現場の声

BizRobo!でシステムを補完して、外注をしなくても課題を解決！



前田氏

私たちの情報システム部門は、例えば『電子カルテからこういうデータを取れるようにしてほしい』といった、現場の要望に対応しています。必要に応じて、外部の会社にシステム改修してもらうのですが、だいたい数百万円かかり、時間も数か月かかる場合があります。しかし、BizRobo!導入後は、ロボットでシステムを補完することで、現場の要望を実現できたことが何度かありました。

ロボットの開発は、私たちがメイン業務の合間に、少しずつ取り組んでも1週間ほどで可能なので、システム改修に比べてコストも時間も格段に抑えられます。もちろん、システムを改修したほうがよい場合もあるのですが、やはりコストがかけられない場合もあります。BizRobo!で既存システムを補い、適材適所の活用をすることにより、低コストで業務を効率化できる可能性が広がったと実感しています。

Copyright © OPEN, Inc. All Rights Reserved.

※記載している内容は取材日時点の情報です。